

# 平成27年度 妙高市図画工作・美術部 活動報告

部長 石田 浩久 (新井小)

## 1 研究主題

妙高の豊かな自然や地域とかかわりながら、描くことやつくること、見ることを通して感性をはぐくむとともに、豊かな表現力を育てる。

## 2 研究の概要

第30回県美術教育研究大会の発表に向けて、大会テーマである「かかわる かわる つなぐ 造形教育」について共通理解を図るとともに、「ICTの活用」「地域・美術館との連携」「探究と活用」の各カテゴリーについて授業実践を通して研修し合い、会員相互の指導力の向上を図った。

## 3 研究の実際

### (1) ICTの活用 (授業者：妙高市立新井小学校 宮崎栄子)

5年2組の子供たちは 木版画で「〇〇している自分」を白黒で効果的に表現するために、大型モニターに映し出された参考作品の様々な彫り方や彫刻刀の選び方、表現の意図や印象について考えながら、創作意欲を高めていった。グループ毎に彫刻刀や表現効果を考えた彫り方を選び、製作過程をタブレットパソコンで撮影して記録した。それにより表現に合わせた彫り方を学級全員で共有したり、手順を各自が再生して確認したりしながら、自分の表現の幅を広げることにつながっていた。ICTの活用は、イメージ化による製作の効率化や表現意欲の向上に効果的であることが確認された。



### (2) 地域・美術館との連携 (授業者：妙高市立新井中学校 中村葉子)

2年1組の子供たちは、様々な知識や技能をもつ地域のお年寄りと交流しながら「布ぞうり」づくりを教わり、織りへの興味を高めていた。講師のお年寄りの方々に積極的に質問をしたり、話しかけたりするなど意欲的に学習に取り組む姿が見られた。地域の人材や題材を活用し、地域とのかかわりを深めることにより、自らの生き方や郷土愛につなげることができる。また、小・中学校が情報を共有して地域の人材や地域の施設との連携を深めることが大事であることが示唆された。

### (3) 探究と活用 (授業者：妙高市立新井小学校 宮越 薫)

2年1組の子供たちは前時までに、各自が絵の具や水の量を加減しながら、ふた付き透明カップに30色のきれいな色水をつくっていた。その色水を、柔らかな日差しが入るワークスペースで、色の組み合わせを考えながら並べたり、形を考えて組み合わせたり組み替えたりしながら、作品づくりに取り組み自分の世界に浸っていた。友達と協力したり、友達の作品を見合ったりすることによって、色や形の組み合わせによる新たな発見やつくる喜びを実感する姿があった。鑑賞と表現が一体化した構成であり、探究や活用の授業イメージを深めることができた。



## 4 成果と課題

今年度は、県美大会への参加・運営を今年度の活動の柱に位置付けて活動を進めた。そのことにより、各自の研修意欲の高まりと相互の協力体制が高まった。特に、新たな視点から題材を探ったり、地域素材と深くかかわったり、単元開発に挑戦したりするなど、意欲的な実践に取り組んでいた。また、県内各地の実践にふれることで刺激を受け、視野を深めることができた。

今後も、地域素材と主体的にかかわりながら感性を磨き、表現力を豊かにする指導法を探っていく。そのために、9年間の学びを考えた日常の授業の見直しに努めるとともに、言語活動の充実に向けた授業コーディネート、子供の興味関心を引き出す題材設定の充実に努める。